

## 【防災教育への関心】

- ・無関心な人をどうして関心を持たせるのか。
- ・若い世代（20～40代）くらい興味がないように思う。小学生orお年寄りが主になっている。
- ・自分の地域で災害が起こると（現実として）とらえていない。
- ・自分も災害にあうという概念が住民にない。従って老若，学生，教育が必要では？  
→準備は一切していない。
- ・防災活動に参加し，意識を高める事が大事だと思う。人事と思わない事。
- ・地区民によって温度差がある。防災士や自治区役員がいくら言っても，他人事のような考えを持っている者も多い。自助が1番。また日頃，反抗的な者程「いざ」という時に自治会の対応に文句を言うものである。
- ・日頃からの意識
- ・日常の防災，減災知識の地域住民への周知

## 【学校・家庭・地域へでの課題】

- ・自主防災会の会員の高齢化（課題である）
- ・校区の防災訓練があるが，参加者は動員された高齢者が多い。本当は動ける元気な人の参加が望ましいが。
- ・地域の防災・被災の情報，伝承説話等を子供の頃から聞いていく機会をつくってほしい。
- ・ドローンやメールやインターネット等，技術が進んでいる。便利になってきたがそれら自体は，生命や財産を守ってくれるわけではない。自分の命は自分で守る。自分の財産は自分で守る。という部分の教育は，どのように行われているのか？どう進めていくのか？
- ・正しい情報の見分け方
- ・住民が防災用語の理解が不十分と思われる。
- ・防災教育計画が不十分
- ・地域間のコミュニケーション不足による”共助”の欠落や，被害を大きくしていると思う。公助はほとんどあてにはならない。地域のコミュニケーションを活性化するには何か他地区で良い例があれば教えてほしい。
- ・自分の自治区の災害に対する弱点が明確でない為，訓練をしていない。市でのPRを望む。各地区の弱点。
- ・通学路の安全確保（特に沿岸部の小・中学校）

## 【学校での防災教育について】

- ・幼い頃から防災については教育をしてもらいたい。訓練を必ずしてほしい！！
- ・小学生の時からてんでこに教えて
- ・東北の大震災では，災害教育が徹底している学校は多くの人命が助かったと聞いている。小学校からの地域の特性に応じた災害教育は必要であり，教育に取り入れて欲しい。
- ・小，中，高校の教育を（防災士としては小中高校生まで手が廻らない）先生の役割を強化
- ・学生（小学～大学）にもっと地域の防災活動に参加してもらう  
→これからの防災，減災を考える上で重要なのでは？☆学生の意識が弱い
- ・学校の被害の映像をよく見るが子供の学力向上の為には教育の場所（学校の復興を早くしてほしい）
- ・大分の災害をベースとした教育材料をもっと充実する必要がある
- ・小，中学校の防災教育の推進をお願いしたい。

## 【地域での防災教育について】

- ・ 町内における学びの場
- ・ 防災訓練を地域と一緒にしたら良いと思う。
- ・ まずは、地域のリーダーを育成する予定です。防災士になっても地域で生かすのは、なかなか難しい。

## 【教育の一環としての避難訓練】

- ・ 近々地域での避難訓練を予定しておりますが、地域の人の興味を持って参加してもらう為の方法について成功例を知りたい。
- ・ 避難訓練は、平日日中、在宅者が少ないため、9月1日シェイクアウト訓練のみである。来年は土曜日！どんな避難訓練にするか課題。
- ・ 住んでいる地域は高台で津波の心配はない。しかし、傾斜地が多く土砂崩れが心配である。傾斜地居住者と平坦地居住者との防災訓練のあり方は。
- ・ 小学校、中学校の「釜石の奇跡」の成功例（避難訓練）はあるが、市民全体の訓練を行ったらどうですか？
- ・ 5年程前から防災訓練を行っているが、何時も避難訓練、消火訓練、炊き出しなど決まったことをしています。「マンネリ化」若い人でも参加できるような方法（アイデア）があれば、教えて下さい。
- ・ 小中学生を地域の防災訓練に参加せる方法
- ・ 月一回程度でミニ防災訓練をしている。
- ・ AED取扱い等を行っているが避難経路のDIG等は未達である。
- ・ 訓練等が重要である。

## 【災害時要支援者について】

- ・ 自治会内にマンションもあり、要支援者の情報活用していますか。実際に支援者とコミュニケーションしていますか。